

京都市台北情報拠点レポート(2019年8月・9月分)

1 統計

○訪日旅行者数(台湾)

- ・2019年8月 420,300人 (2018年8月 394,551人) (伸率 6.5%)
 - ・2019年9月 376,200人 (2018年9月 329,142人) (伸率 14.3%)
- ※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内ホテル対象宿泊延べ人数(台湾)

- ・2019年8月 22,499人 (2018年8月 23,674人) (伸率 -5.0%)
対象施設数:58ホテル
- ・2019年9月 18,459人 (2018年9月 12,491人) (伸率 47.8%)
対象施設数:58ホテル

※出典「京都市観光協会データ月報」

2 市場動向

【観光市場全体動向】

台湾交通部観光局が発表した「2019年1月-6月台湾出国人数および増加率」の統計によると、2019年前半台湾の累計出国人数が8,614,204人で、昨年同期より2.63%増加した。旅行先に関して、日本が依然1位を占め、中国、香港がそれぞれ2位と3位になっているのに対し、増加率が最も高い国は順次、フィリピン、ベトナム、タイとなった。東南アジアへの旅行意欲が高まるほか、欧米豪エリアにおいて、ニュージーランドの成長が最も著しく、47.08%の増加が見られた。

台湾人気旅行先のトップ10に大きな変化はないが、30.6%増加したフィリピンが初めてマレーシアに代わり、上位10位にランクインした。フィリピンの人気旅行先ボラカイ島は昨年度から閉鎖を解除し、タイガーエア台湾は6月からパラワン島-台北直行便の就航、さらにエアアジアが8月から高雄-セブ島、クラークの就航など、今年フィリピンの旅行市場が注目される。一方、トップ10のうち、日本、中国、マカオ、アメリカの4市場がマイナス成長になり、アメリカは4.88%の減少が見られた。原因として、6月のエバー航空ストライキに影響され、欧米などの長距離路線が多くキャンセルされたことが考えられる。

中国大陸側の台湾向け旅行などを担当する「海峡兩岸旅游交流協会」は8月1日から中国の47大都市に居住する者の、台湾への個人旅行を暫時停止するという通知を發布した。8月には一日平均5,300人余りの中国人が訪台したが、9月(19日まで)には一日平均910人に減少し、先月より8割の減少が見られ、11年以來の最低数字になっている。

最大手民泊予約サイトAirbnbが発表した最新資料によると、2018年7月から2019年6月の12か月間、144万人を超える台湾人が旅行する際にAirbnbの宿泊施設を予約し、2014年より9倍以上の成長率が見られ、民泊体験の需要が上昇していると思われる。台湾のAirbnb利用者の平均年齢が31歳で、58%が女性になる。Airbnbの人気旅行先は順次、日本、韓国、アメリカ、中国、タイで、「現地の生活を体験したい(83%)」、「民泊という宿泊形態が環境にやさしい(66%)」などがAirbnbを選んだ理由である。

〔訪日市場動向〕

交通部観光局の統計によると、8月の台湾訪日人数は433,130人、昨年同期と比べ6.61%の増加が見られた。日韓関係の悪化で、韓国からの訪日人数が48%と激減したため、台湾が1位の中国に次いで訪日外国人観光客の2位になった。

近年東北地方が台湾でのプロモーションに力を入れ、2014年から毎年12月に開催される「東北六県感謝祭」のイベントをはじめ、さまざまなプロモーションを実施し、台湾で知名度が広がっている。国土交通省東北運輸局が発表した今年1-6月の観光統計データによると、東北の外国人延べ宿泊者数が前年と比較して20%増、台湾が東北におけるシェア率が約4割を占め、台湾人の延べ宿泊者数が245,120人に達した。また、9/25 エリート PR グループ、VISIT 東北および H. I. S 台湾が業務提携し、東北エリアの旅行需要を見込み、両地域の「観光事業・交流人口の拡大」「海外進出支援」「地方創生」を目指し、新規ビジネス開発に取り組む。第一弾として、台湾の旅行ブロガーなどのインフルエンサーとタイアップし、東北の観光地や宿泊施設のプロモーションをはじめ、台湾から東北への訪日旅行商品の企画・造成などを行うサービスを、2019年10月から提供している。東北エリアは紅葉、雪景色、温泉、スキーなど魅力的な観光資源があり、下半期にはエバー航空青森便の就航や仙台定期便の増便など、今年の秋冬に注目度が高い旅行先と予想される。

日本観光庁が発表した2018年の宿泊データによると、台湾が日本20県での宿泊率が1位になり、東北6県以外に、四国4県、北陸3県などの地方都市において、台湾がトップを占めている。訪日10回以上の重度リピーターが多い台湾では、訪日旅行先が地方都市への移行を進め、独特、ディープな観光体験を求める傾向がみられる。

来年度の東京オリンピックが注目を浴びている中、日本だけではなく、台湾でもスポーツブームを迎えている。宿泊予約サイトHotels.comが台湾の若い世代を対象に「スポーツ旅行に関する調査」を発表した。現在では日本に温泉、お花見を体験する以外に、スポーツが訪日旅行を決める動機の一つになっている。台湾25歳-35歳の調査対象のうち、約22%がスポーツを目的に日本での旅行経験があるほか、スポーツ試合観戦、スポーツ体験など、日本のスポーツ旅行に興味を示した方は約半数(45%)だった。調査結果では、野球、相撲、剣道が人気のスポーツ種目だった。また、スポーツ旅行の人気旅行先について、東京(64%)の1位に続き、大阪(52%)、京都(39%)と北海道(37%)などの大都市が上位を占めることが分かった。

〔訪日台湾旅客数推移〕

訪日台湾旅客数推移		
	JNTO 数値	台湾交通部観光局数値
	成長率(%)	成長率(%)
2019年7月	459,200	477,351
	-0.3	1.94
2019年8月	420,300	433,130
	6.5	6.61
JNTO: Japan National Tourism Organization		
交通部観光局: Tourism Bureau, M.O.T.C. Republic of China		

〔関空の定期便の動向〕

関空定期便利用状況 出国入国状況合計 2019年7月					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	354	92,388	78,965	85.5
	エバー	229	60,994	48,674	79.8
	キャセイ	62	18,982	16,102	84.8
	ジェットスター・アジア	104	18,720	17,194	91.8
	フィリピン	26	5,174	3,894	75.3
	タイガーエア台湾	150	27,000	24,148	89.4
	JAL	62	8,928	8,412	94.2
	ピーチ	310	55,800	52,386	93.9
	エアアジア X	38	14,326	12,390	86.5
	スクート・タイガーエア	62	11,160	10,084	90.4
	チャイナ	354	92,388	78,965	85.5
合計		1,397	313,472	272,249	86.8
関空定期便利用状況 出国入国状況合計 2019年8月					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	358	94,208	82,022	87.1
	エバー	302	80,462	71,187	88.5
	キャセイ	61	18,811	14,859	79.0
	ジェットスター・アジア	98	17,640	15,506	87.9
	フィリピン	26	5,174	3,837	74.2
	タイガーエア台湾	148	26,640	23,867	89.6
	JAL	61	8,894	8,068	90.7

ピーチ	291	52,380	48,413	92.4
エアアジア X	34	12,818	10,156	79.2
スクート・タイガーエア	60	11,120	9,755	87.7
合計	1,439	328,147	287,670	87.7